



井戸跡



国
院

井戸跡
僧房と国師院の間に造られた井戸です。一辺が約1.2mの木組みの井戸で、四隅に丸太を打ち込み、横板を渡しています。この井戸の中から「國院」という墨書きのある須恵器が出土しています。



安
居



齋
會



木筒の出土した土坑（ゴミ捨て穴）

寺の東側を区画する築地近くに大量の木簡（荷札）や木屑、割れた土器や瓦が埋められた穴がみつかりました。この付近は地下水位が高いため、木製品が腐らずに保存されたようです。

木筒には、天平勝宝2(750)年の年号が記され、目（国司の四等官の4位）あてに何かを四斗送ったことが記されています。また、一緒に出土した須恵器には「安居」や「齋会」といった宗教行事を示す用語が墨書きされています。国分寺造立の詔が出たのち、なかなか造立が進まなかったため朝廷はたびたび督促をしていますが、安芸国分寺では、詔が出て9年後には主要伽藍が完成し、宗教行事が行われていたことが推察されます。



南側の区画溝

東西方向に延びる幅約1.8～2.4mの溝です。写真は、寺の中心線から東側の部分で、約60mにわたり確認されています。寺の中心線から西側の延長線上でも同様の溝が確認されており、寺の南側築地の側溝であった可能性があります。

築地

築地は、寺の東側と西側で確認されています。

築地は、幅2mの築地基壇を中心に、その両側の幅約1mの犬走り状テラスとその外側の幅2m前後の内溝と外溝で構成されています。

この築地の中心で東西の距離を測ると、約255mでした。南北については明確になっていませんが、ほぼ同規模であったと思われます。

安芸国分寺歴史公園の位置図



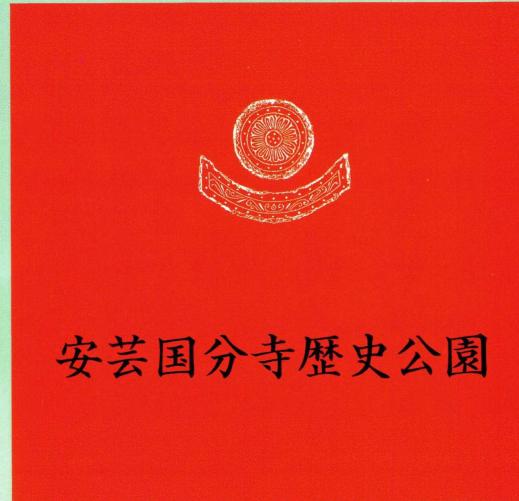
■問合先

東広島市教育委員会生涯学習部文化課 Tel 082-420-0977 (直通)

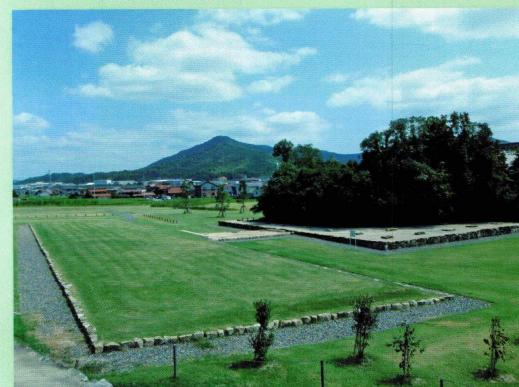
※安芸国分寺歴史公園は、文化財の保護と活用を目的に整備した公園です。ご利用に当たってはボール遊びやラジコン等の危険な遊び、火気の使用など公園利用者や周辺に住む人たちの迷惑になる行為はしないでください。

また、公園西側、市道一丁田吉行線沿いに駐車場を設けています。(大型2台、普通車20台)

公園利用の際にはこちらの駐車場をご利用ください。



安芸国分寺歴史公園



僧房及び講堂復元基壇(西から)

東広島市教育委員会

■安芸国分寺について

奈良時代、聖武天皇は疫病と飢饉や反乱などによる国土の荒廃を憂い、国家の鎮護を祈念する目的で、天平13(741)年2月14日、諸国に国分二寺（僧寺・尼寺）の建立を命じました。僧寺は「金光明四天王護國之寺」、尼寺は「法華滅罪之寺」が正式な名称です。

安芸国では、西条盆地の北縁の東広島市西条町吉行字伽藍に国分寺が造営されました。国分尼寺の位置は明らかではありませんが、国分僧寺の東側（字尼寺）一帯にあったと考えられています。

江戸末期に編纂された芸藩通志には、国分寺縁起が収録されていて、それによれば「当寺は31代用明天皇の太子、優婆塞圓通が御開基の地なり」とあるため、国分寺建立以前に建てられていた寺院を転用して国分寺としたとする説もありましたが、これまでの発掘調査では前身寺院の遺構は確認されていません。

伽藍は南から金堂、講堂、僧房が一直線に並ぶ東大寺式の伽藍配置で、塔は伽藍中心線より西側に造られています。中門と南門の位置が未確定であることや北側築地が確認されていないため、寺域の南北規模は不明ですが、東と西の築地は確認されていて、東西約255mの規模であったことがわかっています。

国分寺建立の命が下ったのち、諸国で国分寺の造営が始まりますが、造営ははからず、天平勝宝8(756)年5月に聖武天皇が亡くなった直後に、造立の進捗状況を確認するため都から諸国に使いが派遣されています。しかし、その状況は芳しくなく、6月には聖武天皇の一周年忌に向けて仏像と金堂を完成させるよう命令が出されています。

安芸国分寺では、天平勝宝2(750)年4月29日銘のある木簡をはじめ、多量の木簡とともに「安居」「齋会」といった墨書きのある須恵器や瓦、土器が1つの土坑（ゴミ捨て穴）から出土していて、同時に投棄されたものと考えれば、毎年4月15日からの安居（夏季の修行）が天平勝宝2年頃には安芸国分寺で行われたことになり、金堂などの主要建物ができるがっていたと考えられます。天平勝宝8(756)年6月に工事を急がせる命があり、下り、同12月には安芸国を含む26カ国に仏具が配布されていますが、この26カ国はその段階で国分寺の造営がかなり進んでいたグループだったと考えられます。

また、文献上では奈良時代に都から各國に派遣された僧官である「國師」がいたことはわかっていましたが、その國師は各國のどこを拠点としていたか明らかではありませんでした。安芸国分寺の調査では、その拠点となる國師院（國師の事務所）が国分寺の寺域内に置かれていたことを全国で初めて突き止めています。

■安芸国分寺歴史公園について

安芸国分寺は、昭和11年に塔跡が国史跡に指定され、昭和57年に主要伽藍部分が、平成7年に西側部分が追加指定され現在に至っています。史跡を保存するとともに、悠久の時の流れに想いをはせ、先人たちの技や文化を追体験できる歴史学習の場として、また、市民の憩いの場とするため、平成11年度から平成24年度まで15カ年かけて安芸国分寺歴史公園を整備しました。

公園内に復元された講堂基壇や僧房基壇などの遺構は、発掘調査によって明らかになった国分寺創建の頃の様子を示しています。

■所在地

東広島市西条町吉行字伽藍

指定面積 30,861.69m²

指定年月日 昭和11年9月3日

追加指定 昭和52年6月29日（史跡安芸国分寺塔跡）から名称変更

平成14年3月19日（指定範囲追加）